

全日本学生バドミントン連盟
所属各位

全日本学生バドミントン連盟
会長 宮崎重勝
競技部

令和2年度第71回全日本学生バドミントン選手権大会（全日本インカレ）については、今般のコロナ禍の社会状況によりその開催に関して現時点では規模縮小も含めて未確定な状況にあります（8月31日に開催可否決定）。

加えてトーナメント組み合わせ等の準備作業についても、昨年度団体戦が台風19号の影響により中止、また東西インカレや各地区学連主催のリーグ戦ならびに選手権大会も中止という極めて厳しい状況下で、通常とは大きく異なる変則的な対応を求められることとなります。

しかしながら、仮に開催と決定された際にタイトなスケジュールの中であっても粛々と準備を進めて可能な限り遺漏なく大会を運営するためには、今まで経験したことがない極めて変則的な対応を余儀なくされるからこそ、迅速に基本的事項を完成しておく必要があると考えます。

ただし、競技部としては一定の競技レベルを保持して大会が実施できるだけでも可とする、bestよりbetterを目標に対処せざるを得ないと考えております。ご理解の程よろしくお願いいたします。

以下に「令和2年度全日本学生バドミントン選手権大会 組み合わせ基準（特例）」を全日本学生バドミントン連盟として主管学連（中部学連）とも情報交換の上作成しました。

なお、本案は大会の規模縮小も想定して、その際にも即応できるように可能な限り単純化するとともに出場選手カテゴリーも3区分にしました。

趣旨：①昨年度インカレ団体戦トーナメント並びに個人戦戦績結果を最大限活用する（唯一の直近客観的データ）。

②全日本学連が按分・配分した推薦枠数に沿って、団体戦の推薦枠に推薦する大学は昨年度実績等から「地区学連」が選出する。個人戦の推薦枠に推薦する選手は昨年度実績等から推薦枠に該当した「大学」が選出する。

③東西インカレ及び地区大会の代替として推薦枠を拡大し選出に幅を設ける。

以上

令和2年度全日本学生バドミントン選手権大会 組み合わせ基準（特例）

2020年7月13日

全日本学生バドミントン連盟

全日本学生バドミントン選手権大会は、現行の公益財団法人日本バドミントン協会大会運営規程第5章第28条～32条を適用し、シードは団体戦・個人戦それぞれ原則として次の通りとする。

【団体戦の組み合わせ基準】

今年度の団体戦組み合わせに関する特例処置として、以下の1)～3)とする。

理由：①前年度、台風19号の影響により団体戦が中止になったこと。

②今年度、新型コロナウイルスの影響により東西インカレ及び各地区予選会が中止になったこと。

- 1) **ベスト8**までは前年度（2019年度）のトーナメント（シード）をそのまま移行する（2019.2.23.全日本総会決定）。（以上：1.①～③）
 - 2) 地区推薦は従来の推薦枠の他に東西インカレの代替として特例推薦枠を設ける。
 - 3) 各地区学連は割り当てられた全体推薦枠を基に、前年度の東西インカレ及び地区学連大会戦績を参考にして当該地区所属大学（1-8シードに含まれていない大学）を特例推薦枠から従来の推薦枠へランキング順に選出する。（以上：1.④及び2.）
1. 次の①～④により、1～16までシードする。ただし、準決勝及び準々決勝が昨年度と同じ対戦は避けるものとする。その際、不都合が生じた場合は高ランキングから配慮する。
- ①前年度本大会のランキング2位以内をランキングによりシードする。（適用済）
 - ②前年度本大会のランキング4位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準決勝の対戦は避ける。（適用済）
 - ③前年度本大会のランキング8位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準々決勝の対戦は避ける。（適用済）
 - ~~④その年度開催の東日本学生バドミントン選手権大会・西日本学生バドミントン選手権大会のランキングにより抽選でシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。~~
 - ④特例推薦として、前年度、各地区出場校数の比率で、8校の各地区推薦出場枠を按分し、各地区ランキングの高い順に8校内の抽選で16までシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。（④東西インカレの代替）
ただし、各地区出場校数には2.の各地区推薦出場校数は含まれない。

※④の各地区出場校数＝各地区全出場校数－2.の各地区推薦出場校数

※特例推薦枠数（男子）：8校；北海道：0校・東北：0校・関東：5校・中部：0校・
関西：3校・中四：0校・九州：0校
（女子）：8校；北海道：0校・東北：0校・関東：4校・中部：1校・
関西：3校・中四：0校・九州：0校

2. 地区推薦により出場する大学の枠数は以下の通りである。（従来通り）

※従来推薦枠数（男女）：16校；各2校（北海道・東北・中部・中四国・九州）
各3校（関東・関西）

3. 各地区から地区推薦により出場している16大学のうち、各地区下位9校（関東・関西；各下位2校、北海道・東北・中部・中四国・九州；各下位1校）から抽選により8校を8シード下に順次入れる。（従来通り）

4. 以降自動抽選。（2.の地区推薦大学）

※1回戦は、東西の対戦となるように考慮する。また、昨年度と同一対戦は避ける。

※4ブロック内での地区バランス、特に参加校数が少ない地区のバランスを優先的に考慮する。

※関東と関西の地区バランスは、極端な偏りを除き原則として考慮しない。

※参考（従来）団体：32校

；本戦 東日本インカレ8校・西日本インカレ8校

；推薦 各2校（北海道・東北・中部・中四国・九州）

各3校（関東・関西）

※事前資料として、特例推薦枠の各地区学連への按分数は参加申し込み締切日前に（7月末迄予定）各地区学連に公開する。

※各地区学連は、ランキング8位以内該当校（1.①～③）、特例推薦枠校（1.④）、地区推薦枠校（2.）をランキング順に取りまとめて参加申し込みをすること。

【個人戦の組み合わせ基準】

今年度の個人戦組み合わせに関する特例処置として、昨年度（2019年度）全日本インカレ個人戦の戦績を最大限活用する。

理由：今年度、新型コロナウイルスの影響により東西インカレ及び各地区予選会が中止になったこと。

- 1) 前年度本大会戦績ランキングを8シードから32シードまで拡大して適用する。
- 2) 1-32シード決めに前年度本大会戦績ランキング64以内を含めて、この範囲の上位選手に32シード入りの機会を与えることによって東西インカレの代替とする。

(以上：1. ①～⑨)

- 3) 地区推薦は従来の推薦枠の他に地区予選会の代替として特例推薦枠を設ける。
特例として、地区推薦枠数を拡大することによって地区推薦選手の選考に一定の幅を持たせる。
- 4) 各地区学連は割り当てられた全体推薦枠を基に、前年度 of 全日本インカレ・東西インカレ及び地区学連大会戦績を参考にするとともに、新入生への配慮（前年度 I. H. ランキング 8 位以内）を交えながら当該地区所属大学に種目毎の出場者（組）の枠数を割り当てる。当該大学は割り当てられた枠数の出場選手（1-32シードに含まれていない選手）をランキング順に選出する。

(以上：2.)

1. 次の①～⑨により、1-32までシードする。ただし、準決勝及び準々決勝が昨年度と同じ対戦は避けるものとする。その際、不都合が生じた場合は高ランキングから配慮する。
 - ①前年度本大会のランキング2位以内をランキングによりシードする。
 - ②前年度本大会のランキング4位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準決勝の対戦は避ける。
 - ③前年度本大会のランキング8位以内を抽選によりシードする。ただし、昨年と同じ準々決勝の対戦は避ける。
 - ④直近の日本ランキング16位以内をランキングによりシードする。
 - ~~⑤その年度開催の東日本学生バドミントン選手権大会・西日本学生バドミントン選手権大会の8位以内をランキングによりシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。~~
 - ⑤前年度本大会のランキング16位以内をランキングによりシードする。
 - ⑥直近の日本ランキング32位以内をランキングによりシードする。
 - ~~⑦その年度開催の東日本学生バドミントン選手権大会・西日本学生バドミントン選手権大会の32位以内をランキングによりシードする。東西の順番は最初だけを抽選で決めて、以下は東西の交番とする。~~
 - ⑦前年度本大会のランキング32位以内をランキングによりシードする。
 - ⑧直近の日本ランキング64位以内をランキングによりシードする。
 - ⑨前年度本大会のランキング64位以内からランキング順に32シード枠へ繰上げる。

※ 組み合わせ会議の縮小・短時間を旨とする方針であれば、ランキング順にシードすることが望ましい。②③以外はデータが完成されているので客観性を保ちながら主管学連だけで1原案を作成することが可能である（アサミソフト：大会結果報告）。

※昨年度戦績ランキングデータ（卒業生削除）は事前に各地区学連に確認する。

※事前資料として、暫定的に確定した32枠の選手名簿は参加申し込み締切日前に（7月中予定）各地区学連に公開する。ダブルスの場合、参加申し込み時点で名簿外の選手との新たな組は1-32シード決から除外する。

※ 下線部分について、全日本ミックス組み合わせ基準のように新たにポイント制を適用することも考えられるが、1）現行の全日本インカレ組み合わせ基準では「ダブルスのポイント制」の導入が未決定であるため、ダブルスランキングの基本的基準について過去の大会とポイント制との整合性がとれないこと、2）事前データ作成作業に一定の時間を要すること（主管学連）、等を勘案すると、今回は従来通りの方法を採用することが妥当である。ただし、来年度のインカレに向けて「ダブルスのポイント制導入」を議論することは重要である。3）実力ある新ペアは地区推薦枠で出場可能である。

2. 地区推薦により出場する選手の各地区の種目毎の枠数は以下の通りである。

※特例推薦枠数：32名；東日本16名（北海道3名・東北3名・関東10名）

西日本16名（中部4名・関西6名・中四国3名・九州3名）

※従来推薦枠数：32名；東日本16名（北海道3名・東北3名・関東10名）

西日本16名（中部4名・関西6名・中四国3名・九州3名）

3. 各地区から推薦により出場している選手のうち、各地区の推薦人数の比率を基に、下位から「関東6名・関西4名・中部2名・北海道・東北・中四国・九州各1名の計16名」を選出し、第1から第8のシード下に入れる。シード下の位置は抽選により決める。シード下の極端な不都合は、抽選者間で入れ替える。（従来通り）

4. 以降自動抽選（2.の地区推薦選手）

5. 日本バドミントン協会の要請で各種大会に派遣される場合及びその他の特別な理由により、当該選手が上記シード基準①～⑨に適応されない場合は、そのシードについて考慮する場合がある。

- ★シングルスにおいては、ダブルスのパートナーを等分に分けるのが原則であるが、事情によっては相異なる 1/8 に組み入れることまで認める。
- ★1 回戦は、東西の対戦となるように考慮する。また、昨年度と同一対戦は避ける。
- ★4 ブロック内での地区バランス、特に参加校数が少ない地区及び参加人数の少ない大学のバランスを優先的に考慮する。
- ★関東と関西の地区バランスは、極端な偏りを除き原則として考慮しない。 以上

※参考（従来）個人：96 名+ α ；前年度 B 8 以内・日本ランキング B32 以内
；本戦 東日本インカレ 32 名・西日本インカレ 32 名
；推薦 東日本 16 名（北海道 3 名・東北 3 名・関東 10 名）
西日本 16 名（中部 4 名・関西 6 名・中四国 3 名・九州 3 名）

※組み合わせ会議に関しては、社会状況を鑑み極力少人数で構成するとともに時間短縮を図る（可能な限り自動シャッフルを活用する）。

※団体戦参加申込書は 1. ①～④と 2. に該当する全大学について記載する。

※個人戦参加申込書・選手名簿は 1. ①～⑨の 32 枠と 2. に該当する全選手を記載する。

※従来の東西インカレ及び各地区選手権大会の戦績一覧は 1-32 シード選手名簿と各地区推薦者名簿に変更する。

令和2年度全日本インカレ団体戦（特例）

シード	前データ	全日本学連（主管学連）	地区学連	当該大学
1～8 (8校)	1～8	前年度トーナメントを移行 (操作済) 【1.①～③】	1～8シード大学 (決定済)	参加申し込み
9～16 (8校)	特例推薦枠	8校枠を各地区出場数比率を基に按分 【1.④】 ※1 	出場校（1-8シードに含まれていない大学）をランキング順に選出 ※2 	参加申し込み
17～32 (16校)	従来推薦枠	16校枠を各地区枠数で従来通り配分 【2.】	出場校をランキング順に選出 ※3  地区ランキング作成 	参加申し込み

※1：按分枠数を参加申し込み締め切り日前（7月末迄予定）に各地区学連に公開

※2：当該大学に連絡

※3：当該大学に連絡

※4：各地区学連は当該大学の参加申し込みを取りまとめて全日本学連・主管学連にデータ送信・書類郵送

※5：各地区学連は従来推薦枠で参加申し込みをした大学のランキングを作成する

因みに、特例推薦8枠比率を決める各地区出場校数：男子；北海道0・東北0・関東8・中部1・関西5・中四1・九州1
(昨年度インカレ) 女子；北海道1・東北0・関東7・中部2・関西6・中四0・九州0

でした。

令和2年度全日本インカレ個人戦（特例）

シード	前データ	全日本学連（主管学連）	地区学連	当該大学
1～8 (8名・組)	・前年度8位以内 ・日本ランキング 16位以内	1 原案作成（説明資料準備）		参加申し込み（Z地区） A大学：無 B大学：E君・F君 C大学：G君
9～16 (8名・組)	・前年度16位以内 ・日本ランキング 32位以内	暫定選手名簿公開 (32名・組) 【1.①～⑧】	→ 当該大学に連絡（Z地区）	・ ・ ・ ・ ・ ・
17～32 (16名・組)	・前年度32位以内 ・日本ランキング 64位以内 ・繰り上げ ↑ ・前年度64位以内	【1.⑨】		・ ・ ・
33～64 (32名・組)	特例推薦枠 【2.】	自動抽選 枠数を地区学連に配分 →	枠数を当該大学に割り当て →	出場選手をランキング順に選出 (1-32シードに含まれていない選手) A大学：A1君・A2君 B大学：B1君 C大学：無 D大学：D1君・D2君・D3君
65～96 (32名・組)	従来推薦枠 【2.】	自動抽選 枠数を地区学連に配分 →	枠数を当該大学に割り当て → 地区ランキング作成 ←	・ ・ ・

- ※1：暫定選手名簿を参加申し込み締め切り日前（7月末迄予定）に各地区学連に公開
- ※2：各地区学連は従来推薦枠で参加申し込みをした選手のランキングを作成する
- ※3：各地区学連は当該大学の参加申し込みを取りまとめて全日本学連・主管学連にデータ送信・書類郵送

因みに、64から32への繰り上げ人数：MS;11名・MD;19（18）組・WS;8名・WD;15組 です。（単純に卒業生を削除した人数）

全日本インカレB32予定者リスト

種目名:男子シングルス			
32名	順位	選手	所属
	1	田中湧士	日本大学
	2	嶺岸洸	法政大学
	3	藤原圭祐	法政大学
	4	大林拓真	早稲田大学
	5	緑川大輝	早稲田大学
	6	山澤直貴	法政大学
	7	一井亮太	法政大学
	8	山田 尚輝	日本体育大学
	9	戸内 佑亮	関西学院大学
	10	三橋健也	日本大学
	11	小野寺雅之	早稲田大学
	12	後藤海斗	日本大学
	13	村本 竜馬	日本体育大学
	14	田中 佑貴	龍谷大学
	15	西野 勝志	筑波大学
	16	野田悠斗	法政大学
	17	原口翔多	法政大学
	18	春成 昂哉	筑波大学
	19	山下 恭平	日本体育大学
	20	小川 桂汰	敬和学園大学
	21	川原 聡磨	龍谷大学
	22	並川 真大	立命館大学
	23	川原 怜也	龍谷大学
	24	佐藤 雄輝	中央大学
	25	仁平 滄也	明治大学
	26	本田 大樹	龍谷大学
	27	中島 拓哉	龍谷大学
	28	鈴木 利拓	筑波大学
	29	森 宏樹	東京情報大学
	30	渡辺俊和	早稲田大学
	31	杉本 陽太	立命館大学
	32	光島理貴	日本大学
	33	清水 吏	北海学園大学
	34	宇治巧登	日本大学
	35	藤澤智樹	日本大学
	36	本間 暉人	日本体育大学
	37	中川 正麻	中央大学
	38	大出 竜輝	龍谷大学
	39	相澤桃李	日本大学
	40	吉村徳仁	早稲田大学
	41	森田 新太郎	筑波大学
	42	本田 竜也	松山大学
	43	中山 裕貴	敬和学園大学
	44	藤田 啓汰	立命館大学
	45	片桐 悠輔	北翔大学
	46	赤木優佑	東海大学
	47	中島 圭寿	敬和学園大学
	48	岩永 廉	同志社大学
	49	辻 凌也	中央大学
	50	國井 颯人	立命館大学
	51	高木 凱登	福岡大学
	52	山元拓摩	日本大学
	53	小倉由嵩	日本大学
	54	古川 築	金沢学院大学
	55	友金利玖斗	早稲田大学
	56	土平 孟	筑波大学
	57	細山田 真也	龍谷大学
	58	田中 一成	関西学院大学
	59	片岡成	天理大学
	60	遠藤 真彦	北翔大学
	61	寺田 真也	金沢学院大学
	62	池田 佑介	明治大学
	63	緒方友哉	日本大学
	64	清水晃希	大阪成蹊大学

奈良岡 功大	IMG (日本大学)
池端 元哉	早稲田大学
中山 裕貴	敬和学園大学
鎌田 雄太	中央大学

赤字 既卒者

日本ランキング B16

日本ランキング B32

日本ランキング B64

繰上げ

種目名:男子ダブルス

32組	順位	選手	所属
1	1	山下 恭平/山田 尚輝	日本体育大学
	2	小川 桂汰/柴田 一樹	敬和学園大学
2	3	小野寺雅之/大林拓真	早稲田大学
	4	三上 楓/齋上 雄一	日本体育大学
	5	光島理貴/緒方友哉	日本大学
	6	中島 拓哉/家壽多 慶大	龍谷大学
3	7	筑後 恵太/農口 拓弥	明治大学
	8	小倉由高/三橋健也	日本大学
4	9	武井 優太/遠藤 彩斗	明治大学
5	10	本田 大樹/三宅 将平	龍谷大学
	11	阿部 終斗/川口 寛祐	龍谷大学
6	12	寺田 真也/伊藤 吏水	金沢学院大学
	13	米田 翔平/藤田 啓汰	立命館大学
	14	酒井 健登/仁平 滯也	明治大学
	15	春日井一生/上田 竜也	法政大学
	16	小林 大吾/西川 薫	日本体育大学
	17	鎌谷 由輝/平岡 立成	関西学院大学
7	18	山澤真貴/藤原圭祐	法政大学
8	19	小川翔悟/佐野大輔	法政大学
9	20	川端 直人/池田 佑介	明治大学
	21	日詰 晴輝/増田 智	龍谷大学
	22	馬場浩市/松尾涼平	近畿大学
10	23	齋藤 大樹/中山 裕貴	敬和学園大学
	24	吉野貴亮/川本虎之介	近畿大学
	25	野田悠斗/長峰善	法政大学
11	26	小野寺泰雅/山元拓摩	日本大学
	27	佐藤 烈/伏見 勇真	青山学院大学
	28	浅原大輔/吉村徳仁	早稲田大学
	29	西野 勝志/春成 晃哉	筑波大学
	30	國井 颯人/杉本 陽太	立命館大学
12	31	芦塚 貴一郎/村瀬 康之介	立命館大学
13	32	大崎 広裕/佐藤 陸	龍谷大学
14	33	大滝聖矢/田中湧士	日本大学
15	34	山内 恭物/滝口 友士	中央大学
	35	藤葉 朋彦/野瀬 悠生	広島大学
	36	安藤大地/谷口拓実	日本大学
16	37	白川友基/西林政樹	立教大学
	38	渡辺俊和/緑川大輝	早稲田大学
17	39	岩切 樹/川原 怜也	龍谷大学
18	40	堂本 侑也/村井 翔	金沢学院大学
19	41	大星 亮輔/伊藤 虎之介	同志社大学
	42	尾崎 拓海/古川 築	金沢学院大学
20	43	山本 純平/渡邊 丞	日本体育大学
	44	中川 寛樹/須永 匠	神奈川大学
21	45	永井風士/安藤遼太	近畿大学
22	46	高上 麟龍/杉山 潤	筑波大学
23	47	戸内 佑亮/澄川 考志	関西学院大学
	48	野村拓海/嶺岸 洸	法政大学
	49	長谷部 信洋/甲斐 一	松山大学
24	50	有馬 義嗣/村本 竜馬	日本体育大学
	51	森岡 亮斗/水村 秀人	中央大学
	52	田中 佑貴/川原 駿磨	龍谷大学
	53	若下 真樹/高木 健心	北翔大学
25	54	山中 東季/木下 剛志	京都産業大学
26	55	上野陸/山田麟	天理大学
	56	尾崎 公哉/濱崎 駿	九州国際大学
	57	岩元 ミライ/小野 優真	金沢学院大学
27	58	遠藤 真彦/高橋 大輝	北翔大学
28	59	藤澤智樹/福嶋壮太	日本大学
29	60	吉田昇永/一井亮太	法政大学
	61	西原 正崇/川波 篤史	関西学院大学
	62	繪師 輝可/久保田 雄貴	敬和学園大学
30	63	久場 圭祐/高野 拓朗	日本体育大学
31	64	並川 真大/山中 一新	立命館大学

大林拓真/緑川大輝	早稲田大学
村本 竜馬/山田 尚輝	日本体育大学
山田 尚輝/河野 匠真	日本体育大学
野田 純馬/浦 隆斗	日本体育大学
三宅 将平/家壽多 慶大	龍谷大学
甲斐 聡一郎/神山 新悟	関西学院大学

赤 字 既 卒 者

日本ランキング B16

日本ランキング B32

日本ランキング B64

繰 上 げ

全日本インカレB32予定者リスト

種目名:女子シングルス			
32名	順位	選手	所属
	1	香山 未帆	筑波大学
	2	池内 萌絵	日本体育大学
2	3	上杉 杏	明治大学
	4	西口 涼子	明治大学
3	5	近藤 七帆	立命館大学
	6	朝倉 みなみ	龍谷大学
	7	西江 彩花	龍谷大学
4	8	吾妻咲弥	早稲田大学
	9	鈴木 ゆうき	早稲田大学
5	10	佐川 智香	筑波大学
6	11	吉田瑠実	早稲田大学
7	12	酒井虹穂	北翔大学
8	13	神山 歩美	日本体育大学
9	14	小林 葉菜	龍谷大学
10	15	山口 萌	法政大学
11	16	青山 葉子	龍谷大学
12	17	斉藤 ひかり	龍谷大学
	18	種岡 遥	龍谷大学
13	19	中原 桜	龍谷大学
14	20	中田真由	作新学院大学
	21	伊東 佑美	法政大学
15	22	柳井 咲耶	法政大学
16	23	黒岩 はるな	龍谷大学
17	24	栃本 ゆき乃	龍谷大学
18	25	中島 祐月	立命館大学
19	26	森 咲和佳	専修大学
20	27	森 優紗	法政大学
	28	落司 実瑠	龍谷大学
21	29	鈴木 成美	明治大学
22	30	正田 捺実	明治大学
23	31	志波 寿奈	龍谷大学
24	32	岡部 天	法政大学
25	33	池上 葉々子	神奈川大学
26	34	合野 聡子	法政大学
27	35	溝口 なつめ	筑波大学
28	36	山田 楓	法政大学
	37	小林 愛佳	金沢学院大学
29	38	眞嶋 彩帆	甲南大学
	39	宮崎詩織	北翔大学
30	40	小沼みなみ	慶應義塾大学
31	41	向井仁那	北翔大学
32	42	上杉 夏美	明治大学
	43	佐々木 絢子	関西学院大学
	44	松本 未玖	立命館大学
	45	善家 百合子	龍谷大学
	46	吉田 葉那	立命館大学
	47	村田 瑞希	関西学院大学
	48	下陸 ひかる	立命館大学
	49	佐藤 麗	日本体育大学
	50	花輪 様子	金沢学院大学
	51	森永ひかり	天理大学
	52	小野田 華実	関西学院大学
	53	生木 萌果	龍谷大学
	54	上田 麻未	関西学院大学
	55	石橋舞	青山学院大学
	56	川村 彩菜	京都産業大学
	57	日野嘉与	作新学院大学
	58	植村 理央	龍谷大学
	59	上杉 優里	龍谷大学
	60	松本茜	早稲田大学
	61	島田 知沙	日本大学
	62	川村 芽生奈	共愛学園前橋国際大学
	63	島中 真奈美	京都産業大学
	64	辻田 つかさ	日本体育大学

宮崎 淳美 法政大学
栗原 あかり 筑波大学

赤 字 既 卒 者

日本ランキング B16

日本ランキング B32

日本ランキング B64

繰 上 げ

全日本インカレB32予定者リスト

種目名 女子ダブルス			
32組	順位	選手	所属
	1	朝倉 みなみ / 斉藤 ひかり	龍谷大学
	2	鈴木 咲貴 / 田代 愛妃	日本体育大学
1	3	吾妻 咲弥 / 吉田 瑠実	早稲田大学
2	4	上杉 夏美 / 鈴木 成美	明治大学
3	5	生木 萌果 / 藤原 奈央	龍谷大学
4	6	木村 早希 / 上杉 杏	明治大学
	7	谷澤 安衣 / 石原 優美	専修大学
5	8	大関 冷奈 / 大石 悠生	筑波大学
6	9	向井 仁那 / 内山 真希	北翔大学
	10	種岡 通 / 木山 麻美	龍谷大学
7	11	有川 友理奈 / 榎谷 志穂	立教大学
8	12	佐藤 灯 / 植村 理央	龍谷大学
9	13	香山 未帆 / 佐川 智香	筑波大学
	14	佐々木 純子 / 結城 咲也子	関西学院大学
	15	池上 祥貴 / 宮内 公佳	日本体育大学
	16	下墜 ひかる / 永田 瑞穂	立命館大学
	17	池内 明絵 / 神山 歩美	日本体育大学
	18	石橋 舞 / 岩谷 果歩	青山学院大学
10	19	青山 葉子 / 志波 寿奈	龍谷大学
	20	上田 麻衣 / 水野 成美	関西学院大学
11	21	今野 聡子 / 山口 萌	法政大学
	22	牧 李香 / 村井 結友	金沢学院大学
12	23	柳本 紗菜乃 / 古賀 菜々子	龍谷大学
13	24	長町 夏実 / 長丸 彩由子	同志社大学
14	25	上杉 優里 / 古川 恵	龍谷大学
	26	日野 嘉与 / 中田 真由	作新学院大学
	27	長谷川 萌香 / 島田 知沙	日本大学
	28	桃井 怜美 / 平野 紗妃	早稲田大学
15	29	近藤 弘美 / 清家 菜々子	京都産業大学
	30	杉田 静香 / 福田 海璃	日本体育大学
16	31	縄田 佳子 / 葛谷 美紅	青山学院大学
17	32	野田 帆奈美 / 甲斐 郁美	龍谷大学
18	33	正田 繪美 / 櫻井 彩貴	明治大学
	34	山中 菜乃子 / 酒井 すみれ	関西学院大学
19	35	山口 貴子 / 開榮 莉子	東北福祉大学
	36	橋下 希穂 / 木村 有沙	日本体育大学
20	37	松田 藍 / 遠山 実歩	東京情報大学
21	38	増水 優香 / 佐藤 萌	北翔大学
22	39	柳瀬 玲泉 / 伊藤 望愛	東京女子体育大学
23	40	石上加奈子 / 白石 麗奈	青山学院大学
24	41	松久 紬 / 鎌田 彩羽	関西学院大学
	42	宮崎 詩織 / 高柳 美月	北翔大学
25	43	小原 麗々子 / 由良 なぎさ	明治大学
	44	福島 里彩 / 石田 有彩	日本大学
26	45	池上 理紗子 / 池上 菜々子	神奈川大学
	46	上村 琴音 / 村井 陽香	日本大学
27	47	奥儀 美羽 / 山田 真未	作新学院大学
	48	清水 清 / 鈴木 優香	法政大学
	49	長谷部 朱里 / 柳原 なな子	日本大学
28	50	斎藤 未奈 / 新田 桃子	大妻女子大学
	51	村田 瑞希 / 花野 里沙子	関西学院大学
	52	藤司 美穂 / 西江 彩花	龍谷大学
	53	中野 有沙 / 関 祐香	東日本国際大学
29	54	吉田 菜那 / 近藤 七帆	立命館大学
30	55	請田 沙穂 / 小野田 華実	関西学院大学
	56	徳岡 玲奈 / 島中 真奈美	京都産業大学
	57	中根 智穂 / 鈴木 ゆうき	早稲田大学
31	58	池澤 みずほ / 横山 澤	専修大学
	59	松本 未玖 / 中島 祐月	立命館大学
	60	川崎 幸穂 / 荒井 葉月	東京情報大学
	61	奴賀 由佳子 / 眞嶋 彩帆	甲南大学
32	62	小林 奈未 / 西村 彩花	東海大学
	63	貴虎 世奈 / 藤村 沙妃	同志社大学
	64	紅林 里奈 / 日比 杏夏	関西学院大学

上杉 夏美 / 由良 なぎさ 明治大学
 吾妻 咲弥 / 鈴木 ゆうき 早稲田大学
 佐藤 灯 / 内山 真希 北翔大学
 生木 萌果 / 村上 知紘 龍谷大学
 長野 来夢 / 石原 優美 専修大学

赤字 既卒者

日本ランキング B16

日本ランキング B32

日本ランキング B64

繰上げ